

名 医
信 頼 の
主 治 医

耳・鼻治療のスペシャリスト

日帰り手術で、治すことにこだわりの医療を実践

少ない通院回数で完全に治し切り、二度と通院しなくていいような状態にもっていくことが私の仕事です

Toshihiko KANEKO

Tomorrow's medical treatment is supported.

金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinic

院長 金子 敏彦

大阪市阿倍野区に多くの患者から慕われ、頼りにされる耳鼻科医がいる。金子耳鼻咽喉科院長の金子敏彦医師だ。彼は自身の診療所において、「治すことにとことんこだわり抜いた医療」を実践する。

金子院長の診断・治療を求めて訪れる患者は今、近隣、遠方を問わない。知識・経験・スキル、そして手術や検査で用いる設備機器。これら全てをハイクオリティに備える金子院長の行う医療には全く隙がない。当の本人は「プロとして当たり前のことをやっているだけ」とサラリと言っている。



父と祖父の影響で医師の道へ 子供の頃から磨かれてきた手術スキル

金子院長は、父と祖父が耳鼻科の開業医だったことから、自然と医師の道を志した。耳鼻科医になったのは既に他界した父と祖父の影響も大きい。「耳などの感覚器を扱う耳鼻科医を選んだのは、音楽が大好きなのも理由の一つかもしれません。耳鼻科の病気は、目で見てわかりやすい病気が多く、また手術で自ら手を下して治る病気が多いことに魅力を感じました」という。

勤務医時代、様々な経験を積んでいく中、金子院長は独立開業の道を模索するようになる。「開業には様々なスタイルがあると思います。耳鼻科に限った話ではありませんが、これからの開業医にはより高度な専門性が求められると思います。臨床医なら誰しも勤務医の時に熱意を持って専門性を高めた分野があると思います。私も自分のスキルを最大限に活かした開業の道をずっと模索していました」

金子院長が「自分のスキル」と自負するのが「手術」。これは彼が医師になるもつと前、子供の頃より「自然と磨かれてきたもの」だという。

「元々、細かい手作業が好きで小さい頃から工作やプラモデル、電気回路が大好きでした。モノを分解したり、組み立てばかりしていました。大した材料や道具がなかったので、自分なりに考えて工夫するのが楽しかったですね」

こうした手作業や工夫が手術に求められる技術に通じ、子供の内から知らず知らずのうちにトレーニングを積んでいたのかもしれない。



平成26年9月に金子耳鼻咽喉科を開業 最先端の医療機器を積極的に導入

勤務医を続けていた金子院長だったが、医学の進歩が彼の「独立開業」という願いを後押しする。「手術手技の進歩とそれを支える医療機器の性能向上により、開業医というスタイルでも手術環境を整えることが可能になってきました。これならば、手術という自分の得意なスキルを活かした開業が出来ると感じました」

そして平成26年9月、大阪・阿倍野の地に耳・鼻の日帰り手術を行う金子耳鼻咽喉科を開業した。開院以来、耳鼻科開業医としては異例の局所麻酔・日帰り手術を軌道にのせてきた金子院長。連携する医師や患者からの紹介で、年々患者の数は増え続けている。例えば鼻副鼻腔の内視鏡手術では、この一年で患者137人に対し、延べ589例の手術を行うなど豊富な実績を上げている（2016年10月～2017年9月）。



清潔感のある院内・待合室

アレルギーに対するレーザー手術や慢性中耳炎に対する鼓膜形成術、その他の細かい手術を合わせる。この一年で延べ750件以上にのぼる。「私の考えはとにかく医者は、治してナンボ」。患者さんの病気を治すことが我々医師の存在価値だと思っています」

患者を治すために金子院長が大切にしているのは、診断だ。「検査をして原因を突き止めて診断をつける。ここを確かなものにならないと患者さんにとってベストといえる治療方針を立てることができません」

CTスキャン（断層写真）や電子スコープを始めとしたいづれの検査機器も、大病院等でも採用されている最先端のモノを導入している。「これらの検査で耳・鼻の状態を全て把握し、症状の原因をつきとめ、確かな診断に繋がっていきます。例えば同じCTスキャンといっても実は機種によって性能は雲泥の差です。手術が必要かどうか、時にギリギリの判断を求められますが、性能の良い医療機器を使わないとその判断を誤ってしまいます」

金子院長は検査による診断結果から、最適な治療を導き出していく。「薬や処置、手術といった様々な治療手段からベストなものを患者さんに提案していきます」



「日帰り手術は医師のスキルと覚悟が求められる」
 少ない通院回数で根治を目指す金子院長独自の診療スタイル

金子耳鼻咽喉科で行われる手術は全て日帰り。一日で全て終えることの出来る手術は、特に仕事を休めない20〜60代の働き盛りの患者に好評を博している。「病院で一週間の入院が必要と言われるような手術でも、ここなら数時間で治すことができる。当院の最大の特徴であり強みの部分です」

金子院長はそんな日帰り手術に関して「当院の日帰り手術に手抜きは全くありません。それどころか、教科書に載っていない様々な対応が求められるなど、医師の経験やスキル、それに覚悟が求められる難易度の高いもの」と話す。

鼻の手術に関しては、慢性副鼻腔炎（いわゆる蓄膿症）の手術、アレルギー性鼻炎に対する後鼻神経切断術、鼻腔形態（鼻中隔彎曲症等）の手術が多い。これらは全て内視鏡で行われるため、顔面に傷が入ることはない。手術時間は30分〜3時間と幅広く、重軽度や複数手術などによって変わってくるという。

実際の手術は金子院長とスタッフが連携した体制で行われる。

取材した日に行われた手術は、10年来の鼻づまりに悩む患者で、両方の慢性副鼻腔炎（蓄膿症）と鼻腔形態の手術（鼻中隔彎曲症、粘膜下鼻甲介骨切除術）を同時に治療するという難易度の高いものだった。

患者のCT画像を見ながら手順を確認し、スタート。モニターで患部を確認しながらの手術は、素人目から見てもわかるほどの手際の良さで淡々と進められていく。金子院長の技量に加え、



確かな診断力も金子耳鼻科の大きな特徴となっている

目を見張るのはスタッフとの連携。あうんの呼吸で、医療用具の交換が金子院長とスタッフの間で次々行なわれていく。

この時の手術で要した時間はおよそ2時間半で、最新の医療機器を用いて効率よく行われた。局所麻酔を受けた患者は手術の間に痛みを感じることもなく、その日のうちに帰宅。術後の経過も良好で、鼻づまりの症状はきれいさっぱり解消した。

「左右の副鼻腔手術や鼻中隔彎曲症等の鼻腔形態の手術を別の日に行う医療機関もありますが、当院では複数の手術をなるべく同時に終わらせる様にしています」

現在は鼻・副鼻腔の手術が圧倒的に多く、クリニックで行われる手術全体の約8割を占めている。一方、耳の手術に関しては「主に慢性中耳炎が多い」とのこと。「中耳の手術は元々私の専門分野でもありますので、今後当院でも設備をしっかりと整え、耳の手術の実績も多く作っていききたい」

手術への徹底的なこだわりをもつ金子院長は、「治すこと」をポリシーとしているが、

もう一つこだわりがある。それは「患者さんの通院回数を減らすこと」だ。「少ない通院回数で完全に治し切り、二度と通院しなくていいような状態にもっていくことが私の理想。複数の手術を一回で終わらせるのも同じ考えからです。手術によって、患者さんに長年の悩みが治ったと言われるのは、医者冥利に尽きる瞬間ですね」と柔和な笑みを浮かべる。



**「自分の得意分野を仕事にできているのは幸せなこと」
培ってきた人脈は金子院長のかけがえない財産**

医師になって20年。常に自己研鑽に励みながら、着実に実績を積み上げてきた金子院長。「今、自分の得意なことを仕事に出来ている。これは本当に幸せなことだと思います」と語る。

さらに「振り返ってみて良かったなと思うのは、素晴らしい人との出会いがあったこと。私は運が良く、人には本当に恵まれました」とも。

大学、医局時代、金子院長は多くの先輩や同僚、後輩と出会い、今日まで親交を深めてきた。「今の私があるのは彼らのおかげ」と、良きライバルや良き師匠といえる人物達との出会いにより、金子院長は医師として、また人として大きく成長していった。

「人脈は私の人生における大きな財産です。今でもお互い情報交換したり、困ったことがあれば助け合ったりして、私にとってかけがえない存在ですね」

そして、こうして培った人脈をフルに活かした他科との連携は、金子耳鼻咽喉科の大きな武器となっている。「耳・鼻のことならもちろん私の領域ですが、専門外の事を気軽に相談できる繋がりは、一人で診察をしている私にとって宝物です」



患者に負担がかからない様全ての手術を日帰りで行う



2017年から完全予約制に移行

「耳・鼻の治療を諦めずに豊かな人生を送って欲しい」

開院して4年目を迎える金子耳鼻咽喉科は2017年8月から、診療体制を完全予約制に移行

した。「ありがたいことに開院以来多くの患者さんにお越し頂いていますが、一人ひとりの患者さんに対し、今よりもっと高精度で専門に特化した医療を提供したいという想いから完全予約制を採用しました」

医院を完全予約制とすることで、患者の数は減ってしまふ。経営的にはマイナスだが、一方で「その分患者さんをつくり診ることができまふ」という。

今後、さらに専門性の高い耳鼻科を目指す金子院長は「鼻・副鼻腔の疾患は治りにくいと思ってる人が多くいらつしゃいますが、手術を治療の手段に加えれば、何とかなることが大半です」という。

「例えば、今や国民病といえる花粉症に対しては、
「後鼻神経切断術」という手術を行えば症状をかなりの確率で抑えることが出来ます。手術というところとギョツとする方も多いのですが、単に治療の手段の一つです。もっと気軽であつても良いと思ひます」

こうしたことから金子院長は患者に対し「治療を絶対に諦めないで」と強く訴える。「皆さんには良い耳と良い鼻で仕事もプライベートも充実させて、豊かな人生を歩んで欲しい。治らないと思っている症状でももしかしたら、何とかなるかも知れません。気になる症状があればぜひ当院を受診して頂きたい」

実際金子院長は『他の病院に何年通っても良くならなかった』という患者を手術によって何人も完治に導いてきた。

「今後も、今実践している『診断をつけて治す』という当院の方針をどんどん高めていきたいと思っています。手術の技術向上に終わりはありません。開院したから完成という事はありませんし、むしろ気を引き締めて自己研鑽を積み重ねなければいけないと思っています」と真っ直ぐに前を見据える。

自身のこうした考えを実現するため、金子院長は仲間との情報交換や研究会・学会発表などを診察の合間を縫って積極的に行っている。

「最近は少し医院が手狭と感じています。医院移転も将来のビジョンとしては考えています。実現すれば患者さんにもっと快適に治療を受けて貰えるでしょう」

こう話す金子院長だが、移転を計画する理由が実はもう一つある。「今の医院の間取りも実は殆ど私が考えたものです。動きやすいですし、日帰り手術をするにあたってはよい設計だと思えますが、スペースが全く実現できなかった事もあります。新しい医院を作るとなると、また設計が出来ますよね。間取りを考えるのが好きなんですよ」と笑う。

あらゆることに妥協を許さず、『患者を治す』という一点に尽くす姿勢はまさに職人。耳鼻科領域の真のプロフェッショナルである金子院長は、日々進化と成長の手段をストイックに模索している。



PROFILE 金子 敏彦（かねこ・としひこ）

平成9年関西医科大学卒業。同年同大学耳鼻咽喉科医局入局。同13年ドイツ・チュービンゲン大学耳鼻咽喉科聴覚研究所。

関西医科大学附属洛西ニュータウン病院耳鼻咽喉科、大阪府済生会野江病院耳鼻咽喉科、関西医科大学附属滝井病院耳鼻咽喉科医長などを経て、同23年医療法人hi-mex みらい耳鼻咽喉科院長。

同26年金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinic 開設。

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医、補聴器適合判定医、難病指定医。



INFORMATION 金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinic

所在地 〒545-0021
大阪市阿倍野区阪南町2-1-18
TEL 06-4399-4133 URL <http://kaneko33.com/>

アクセス 地下鉄御堂筋線 昭和町駅から徒歩約1分
(専用駐車場2台あり)

設立 平成26年9月

診療科目 耳鼻咽喉科・アレルギー科

診療時間 月・火・水・金曜
9:00～12:00
16:00～18:30
土曜 9:00～12:00
手術日 月・火・水・金曜
休診 木曜、土曜午後、日曜、祝日 ※完全予約制



■診療のモットー

「解りやすい診察、無駄の無い医療」

「良い耳、良い鼻で豊かな人生を！」

最新の医療機器を用いて「病気が見える」耳鼻科を目指しています。

治すことにこだわり続ける医療を追究していきます。

■「日帰り手術」が当院の特徴

病気の根治を目指し、手術を積極的に行っています。

鼻中隔彎曲症、慢性副鼻腔炎（蓄膿症）アレルギー性鼻炎、慢性中耳炎の手術の多くを当院では日帰り・局所麻酔で施行可能です。